

令和2年の全数把握対象疾患

届出された全数把握対象疾患について、感染症サーベイランスシステム(NESID)より情報を収集・解析した。令和2年までの全数把握対象疾患の届出状況は、表 1 のようになっている。なお、現時点(2021年7月)での値であり、後日変更されることがある。

1. 一類感染症

届出はなかった。

2. 二類感染症

結核は202例の届出があり、2019年の283例から減少した。類型は、患者136例、疑似症患者3例、無症状病原体保有者62例、感染者死亡者の死体1例であった。患者の病型は、肺結核が91例(死亡者含む)、その他の結核(結核性胸膜炎、結核性髄膜炎、リンパ節結核、粟粒結核等)が40例、肺結核及びその他の結核が6例であった。全届出の年齢階層は、0歳5例、1～10歳未満0例、10代1例、20代16例、30代9例、40代21例、50代10例、60代23例、70代39例、80代58例、90代20例で、80代の届出が最も多く、70歳以上が全体の57.9%を占めていた(別添1)。

3. 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症は52例の届出があり、2019年の23例から大幅に増加し、過去10年で最多であった。類型は、患者31例、無症状病原体保有者が21例で、その年齢階層は、1～10歳未満26例、10代5例、20代6例、30代10例、40代2例、50代2例、60代1例であった。なお、HUSは1例であった。血清型・検出病原体は、O157が43例(VT1が2例、VT1&VT2が35例、VT2が6例)、O26が2例(VT1が2例)、O103が1例(VT1が1例)、O165が1例(VT1&VT2が1例)、O8が1例(VT2が1例)、O型判別不能が3例(VT1が2例、VT1&VT2が1例)、血清でのO抗原凝集抗体又は抗ベロ毒素抗体の検出(HUS発症例に限る)が1例であった。推定感染経路は、経口感染が20例、接触感染が11例(1例経口感染と重複)、家族内患者が2例、不明が20例であった。経口感染が推定されている事例には、焼き肉における加熱不十分な肉類を喫食した記載のある事例が4例、生卵の喫食が1例、ほたての喫食1例等が含まれていた。接触感染が推定されるものは、保育園内や家族内感染が疑われる事例であった(別添2)。

4. 四類感染症

E型肝炎1例、A型肝炎1例、日本紅斑熱3例、ライム病1例、レジオネラ症26例の届出があった。

E型肝炎は、11月に70代男性から1例の届出があり、イノシシ肉の喫食による経口感染が推定感染経路とされている。

A型肝炎は、1月に60代女性の届出があり、推定感染経路は経口感染とされていたが、感染原因は不詳であった。

日本紅斑熱は、6月、9月及び11月に3例の届出があり、2019年の1例より増加した。いずれも60代男女で、女性2名は感染原因が不明であったが、男性は、マダニ刺症による発熱、頭

痛、発しん、肝機能異常を呈しており、推定感染地域は、県内とされている。

ライム病は、8月に40代男性から1例の届出があり、マダニによる感染で、遊走性紅斑、発熱を呈しており、感染地域は上北山村とされている。県内で感染したと推定されるライム病の初めての症例であった。

レジオネラ症26例の届出があり、2019年の21例から増加し、過去10年で最多であった。病型は肺炎型25例、ポンティアック熱型1例であり、男性20例(50代4例、60代6例、70代4例、80代6例)、女性6例(50代1例、70代1例、80代3例、90代1例)であった。推定感染経路は水系感染7例、塵埃感染が3例、不明が16例であった。

5. 五類感染症

アメーバ赤痢7例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症35例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症9例、後天性免疫不全症候群1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症5例、侵襲性肺炎球菌感染症17例、水痘(入院例)8例、梅毒41例、播種性クリプトコックス症3例、破傷風2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症9例、百日咳9例、風しん1例の届出があった。

アメーバ赤痢の病型は、腸管アメーバ症6例、腸管外アメーバ症1例であった。患者は男性7例(40代1例、50代3例、60代2例、80代1例)で、推定感染経路は経口感染1例、性的接触(異性間)3例、不明が3例であった。推定感染地域は、奈良県1例、県外1例、不明5例であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、男性22例(40代1例、50代1例、60代1例、70代5例、80代11例、90代3例)、女性13例(60代2例、70代3例、80代8例)であった。また、全国での状況と同様に60歳以上が多く、全体の9割以上を占めた。病原体検出部位・菌種としては、血液7例(*Serratia marcescens* 2例、*Klebsiella pneumoniae* 3例、*E. coli* 1例、不明1例)、腹水3例(*Klebsiella pneumoniae* 1例、*Klebsiella pneumoniae* 1例、不明1例)、腹水及び胆汁1例(*Enterobacter cloacae*)、喀痰6例(*Klebsiella pneumoniae* *ass pneumo* 1例、*Enterobacter cloacae* 2例、*Klebsiella aerogenes* 2例、*Klebsiella Pneumoniae* 1例)、人工血管1例(*Klebsiella pneumoniae*)、嚢胞穿刺液1例(*Enterobacter cloacae* complex)、腹腔ドレーン1例(*Serratia marcescens*)、尿11例(*Enterobacter aerogenes* 3例、*Klebsiella pneumoniae* 3例、*E. coli* 2例、*Serratia marcescens* 1例、*Enterobacter aerogenes* 1例、*Enterobacter cloacae* complex 1例)、創部1例(*Enterobacter cloacae* complex)、膿2例(*Enterobacter aerogenes*、*E. coli*)、検出部位不明1例(*Klebsiella Pneumoniae*)であった。推定感染経路は以前からの保菌が18例、中心静脈カテーテル2例、尿路カテーテル1例、吸入器具及び口腔ケア用品からが1例、手術部位(手術手技)が6例、肺炎に起因2例、不明5例であった。

急性脳炎の届出は、令和2年は2019年より減少し、1月に4歳男児、2月に3歳男児の2例であった。原因病原体は2例ともインフルエンザで、1例がA型で、もう1例は不明であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は、60代女性1例、80代女性2例の計3例の届出があった。3例とも病型は、古典的クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、男性5例(40代1例、50代1例、60代1例、80代1例、

90代1例)、女性4例(0歳1例、70代1例、80代2例)であり、このうち60代男性1例及び70代女性1例については、発病した2日後に死亡している。血清群は、A群3例、B群5例、G群1例であり、推定感染経路は、0歳女性1例が経産道感染とされており、飛沫感染1例、接触感染1例、その他創傷感染2例、リンパ浮腫からの蜂窩織炎による感染1例、腎盂腎炎による感染1例、不明2例であった。

後天性免疫不全症候群は、3月に男性1例(40代)の届出があった。病型はAIDSであり、指標疾患は、カンジダ症であった。推定感染経路は、性行為感染(同性間性的接触)であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、1月に70代女性と60代女性、4月に10代男児、6月に30代女性、9月に90代女性の計5例の届出があった。また、10歳男児は、ヒブワクチン接種歴が3回と記載されていた。

侵襲性肺炎球菌感染症の届出17例あり、2019年の23例から減少した。男性9例、女性8例で、1歳1例、7歳1例、40代1例、50代1例、60代7例、70代3例、80代2例、90代1名であった。ワクチン接種歴は、1歳女児及び7歳女児では4回終了しており、接種歴無しは7例、不明8例であった。

水痘(入院例に限る)の病型は、臨床診断例1例、検査診断例7例であった。男性6例(10代2例、50代1例、60代1例、80代1例、100歳1例)、女性2例(20代1例、40代1例)であり、ワクチン接種歴は無しが3例、不明が5例であった。推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染が3例、接触感染1例、免疫抑制状態1例、不明3例であった。

梅毒は、過去10年で最多であった2019年の71例より減少し、41例の届出があった。男性32例(20代5例、30代5例、40代9例、50代7例、60代5例、80代1例)、女性9例(20代5例、30代3例、40代1例)であった。患者の病型は、早期顕症梅毒31例(I期:男性16例、女性3例、II期:男性8例、女性4例)、晩期顕症梅毒1例(男性)、無症候(無症状病原体保有者)9例(男性7例、女性2例)であり、無症候のうち50代男性1例は、HIV感染症の合併があった。感染経路は性的接触が40例(同性間2例、異性間32例、不明6例)、不明1例であり、同性間2例とも男性であった。また、性風俗産業の従事歴(直近6か月以内)があった事例は4例あり、性風俗産業の利用歴(直近6か月以内)があった事例は12例であった。推定感染地域は、奈良県が10例、奈良県以外(都道府県不明を含む)が14例、不明は17例であった(別添3)。

播種性クリプトコックス症3例は、60代男性1例、70代男性2例であった。60代男性では、多発性骨髄腫での抗がん剤治療による免疫不全、70代男性2例では間質性肺炎での免疫抑制剤服用に伴う免疫不全によるものと記載があった。

破傷風2例は、10代男性1例、80代女性1例であった。10代男性では、下肢の擦過傷による創傷感染と推定され、筋肉のこわばり及び開口障害の症状があり、テタノブリン投与し症状の改善を認めたことによる臨床決定であった。80代女性は、1輪車に挟まれ左手関節背側にけがをして絆創膏を貼付している際、田植えを手伝ったことによる傷跡への感染が推定され、入院中の経過より、開口障害、嚥下障害、反弓緊張の症状による臨床決定であったことが記載されていた。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は、男性5例(40代1例、70代2例、80代1例、90代1例)、女性4例(20代1例、70代1例、80代1例、90代1例)の計9例の届出があった。病原体検出

部位(菌種)としては、血液 4 例(*Enterococcus faecium* 3 例、*Vancomycin Resistant enterococci* 1 例)、尿 2 例(*Enterococcus faecium*)、膿 2 例(*Vancomycin Resistant enterococci*、*Enterococcus faecium*)、便 1 例(*Enterococcus faecium*)であった。いずれも耐性遺伝子の検索は実施されていなかった。感染原因・経路は、不明 4 例あり、その他腸管からの逆行性感染 1 例、腹腔内膿瘍による感染 1 例、前医からの持ち込み感染 1 例、尿道バルーン・CV カテーテルより感染 1 例、保菌者の日和見感染 1 例と推定される旨の記載があった。

百日咳は、2018 年より全数把握対象に変更にされた疾患であり、男性 3 例(10 代 1 例、20 代 1 例、30 代 1 例)、女性 6 例(6 ヶ月未満 1 例、20 代 1 例、30 代 2 例、40 代 1 例、80 代 1 例)であった。届出数は今年の 37 例より大幅に減少した。感染経路は家族内感染(不明)2 例、不明が 7 例あった。ワクチン接種歴は、10 代 1 例及び 30 代 1 例では 4 回接種、0 歳 1 ヶ月の 1 例は未接種の記載があり、他 6 例は不明であった。

風しんの届出は 8 月に 1 例の届出があり、2019 年の 15 例よりも大幅に報告数は減少した。患者は、30 代男性であり、ワクチン接種歴は無く、血清 IgM 抗体の検出により判定された。推定感染経路及び地域は不明であった。当センターにおいて、ウイルス遺伝子検査を実施したが、発症後、遺伝子検査検体採取までの日数が約 2 週間以上経過していたこともあり、風しんウイルスは検出されなかった。

6. 指定感染症

新型コロナウイルス感染症は、令和 2 年 2 月 1 日に感染症法に基づき指定感染症に定められ、全数把握対象疾患となった。令和 2 年は奈良県保健研究センターへ多数の検査依頼があり、8055 件の遺伝子検査を実施した。

表1 全数把握対象疾患報告状況

調査年	疾患名	平成27年(2015年)		平成28年(2016年)		平成29年(2017年)		平成30年(2018年)		平成31年・令和元年(2019年)		令和2年(2020年)	
		全国	奈良県	全国	奈良県								
一類	エボラ出血熱												
	クリミア・コンゴ出血熱												
	痘そう												
	南米出血熱												
	ペスト												
	マールブルグ病												
二類	急性灰白髄炎												
	結核	24,523	305	24,669	266	23,427	285	22,448	232	21,672	283	17,745	202
	ジフテリア												
	重症急性呼吸器症候群												
	中東呼吸器症候群												
	鳥インフルエンザ(H5N1)												
三類	コレラ	7		9		7		4		5		1	
	細菌性赤痢	156	1	121	2	141		268	1	140		87	
	腸管出血性大腸菌感染症	3,573	27	3,647	23	3,904	21	3,854	26	3,744	23	3,092	52
	腸チフス	37	1	52		37		35		37		21	
	パラチフス	32	1	20		14		23		21		7	
	E型肝炎	212	2	356	2	305	1	446		493	1	454	1
四類	ウエストナイル熱												
	A型肝炎	243	2	272	3	285	1	926	7	425	3	120	1
	エキノコックス症	25		27		30		19		28		22	
	黄熱												
	オウム病	5		6		13		6		13		7	
	オムスク出血熱												
	回帰熱	4		7		8		6		7		15	
	キャサヌル森林病												
	Q熱							3		2			
	狂犬病												1
	コクシジオイデス症	3		3		4		2		2		6	
	サル痘												
	ジカウイルス感染症			12		5				3		1	
	重症熱性血小板減少症候群	60		60		90		77		101		78	
	腎症候性出血熱												
	西部ウマ脳炎												
	ダニ媒介脳炎			1		2		1					
	炭疽												
	チクングニア熱	17		14		5		4		49	1	3	
	つつが虫病	422		505		447	1	456		404	1	536	
	デング熱	293	4	342	5	245	4	201	2	461	4	45	
	東部ウマ脳炎												
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)												
	ニパウイルス感染症												
	日本紅斑熱	215		277		337		305		318	1	421	3
	日本脳炎	2	1	11		3				9		5	
	ハンタウイルス肺症候群												
	Bウイルス病									2			
	鼻疽												
	ブルセラ症	5		2		2		3		2		2	
	ベネズエラウマ脳炎												
	ヘンドラウイルス感染症												
発しんチフス													
ポツリヌス症	1		5	1	4		2		3		4		
マラリア	40	2	54		61		50		57	1	21		
野兎病	2												
ライム病	9		8		19		13		17		27	1	
リッサウイルス感染症													
リフトバレー熱													
類鼻疽	1				1		2		2		1		
レジオネラ症	1,592	8	1,602	10	1,733	18	2,142	19	2,316	21	2,058	26	
レプトスピラ症	33		76		46		32		32	1	16		
ロッキー山紅斑熱													
五類	アเมอร์バ赤痢	1,109	18	1,151	11	1,089	9	843	9	853	11	613	7
	ウイ ル ス 性 肝 炎 (再掲・合計)	206 35 14 255	2	228 35 17 280	1	241 31 22 295	1	214 29 33 277	1	257 31 43 331	2	186 25 35 246	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1,671	28	1,573	22	1,660	27	2,289	45	2,333	35	1,952	35
	急性弛緩性麻痺							141	1	78		34	
	急性脳炎	511	4	763	4	702	5	679	7	959	11	490	2
	クリプトスポリジウム症	15		14		19		25		19		6	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	192	2	175	3	200	3	221	2	193	4	154	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	415	2	494	5	587	10	694	16	894	10	764	9
	後天性免疫不全症候群	1,431	14	1,443	3	1,395	7	1,301	6	1,231	7	1,096	1
	ジアルジア症	81		71	1	60	1	68		53	2	28	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	252	3	312	6	372	3	488	4	543	4	253	5
	侵襲性髄膜炎菌感染症	34	1	43	1	25		37	1	48	1	14	
	侵襲性肺炎球菌感染症	2,403	21	2,735	23	3,205	40	3,328	28	3,344	23	1,655	17
	水痘(入院例)	313	6	318	3	312	5	466	5	492	9	362	8
	先天性風しん症候群									4		1	
	梅毒	2,690	19	4,575	36	5,826	29	7,007	53	6,642	71	5,871	41
	播種性クリプトコックス症	120		137	1	137	2	182	2	156	3	152	3
	破傷風	120		129	3	125	2	134	1	126	2	105	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							80	7	80	4	136	9
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	66	1	61	5	83							
	百日咳							12,115	56	16,845	37	2,947	9
	風しん	163	1	126		91	2	2,941	10	2,298	15	102	1
	麻しん	35	1	165	3	186	1	279		744	9	12	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	38		33		28		24		24		10		
髄膜炎菌性髄膜炎													
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)												

ゼロ値は表示していない

結核

(別添1)

図-1 過去からの週別届出数の推移

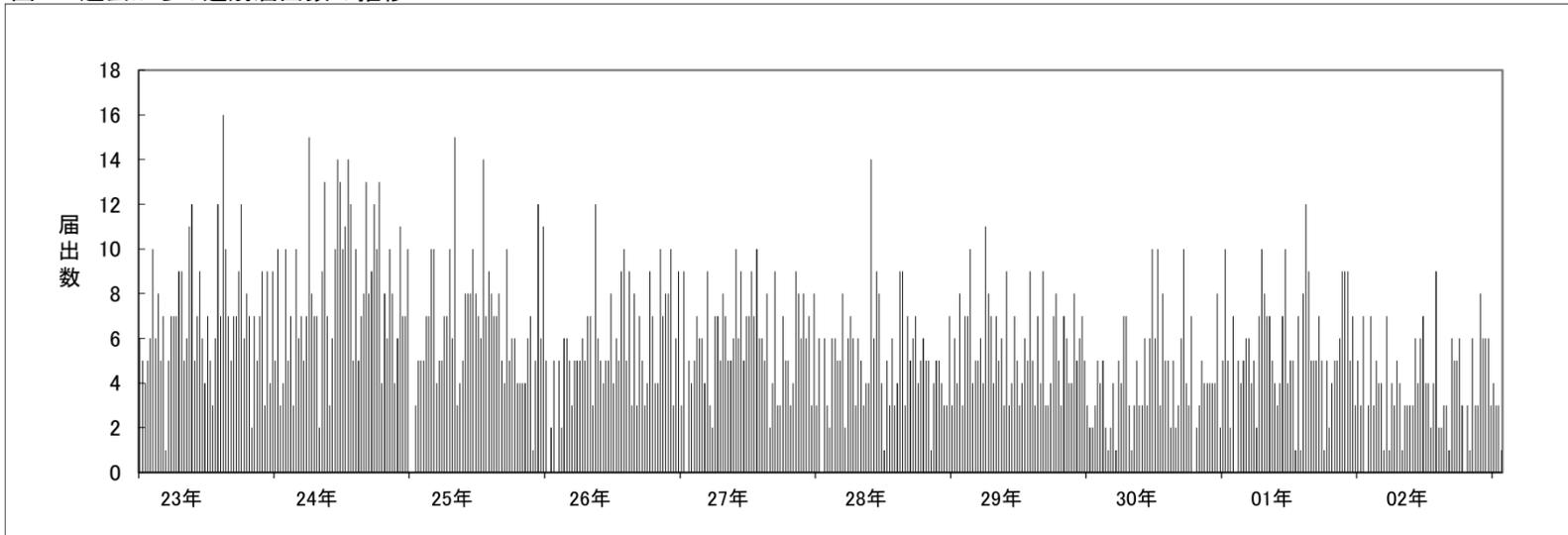


図-2 過去からの届出数の推移

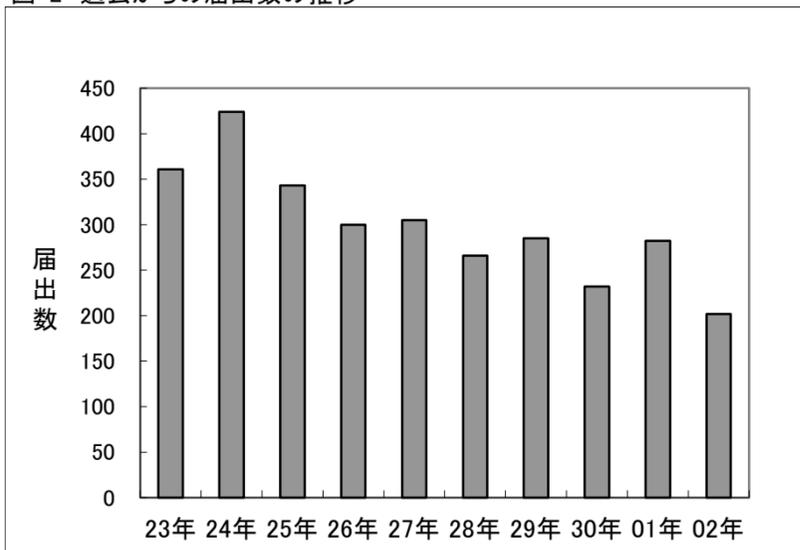


図-5 週別届出数

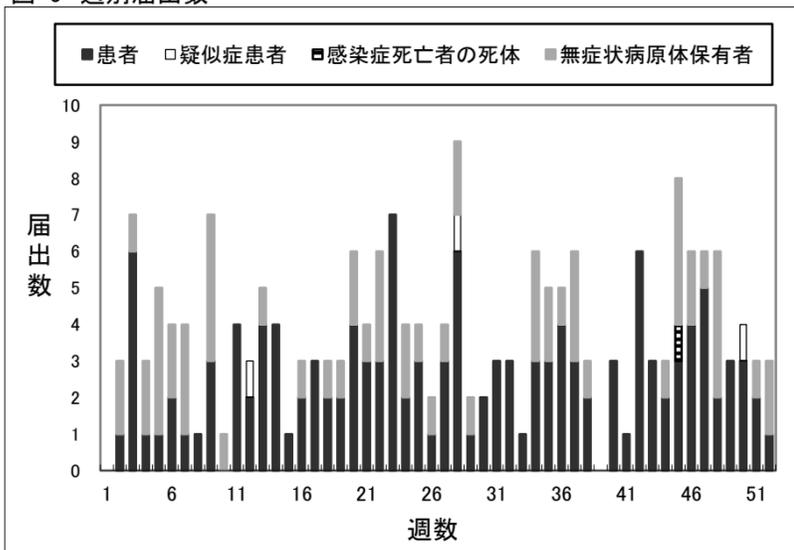


図-3 年齢別届出数

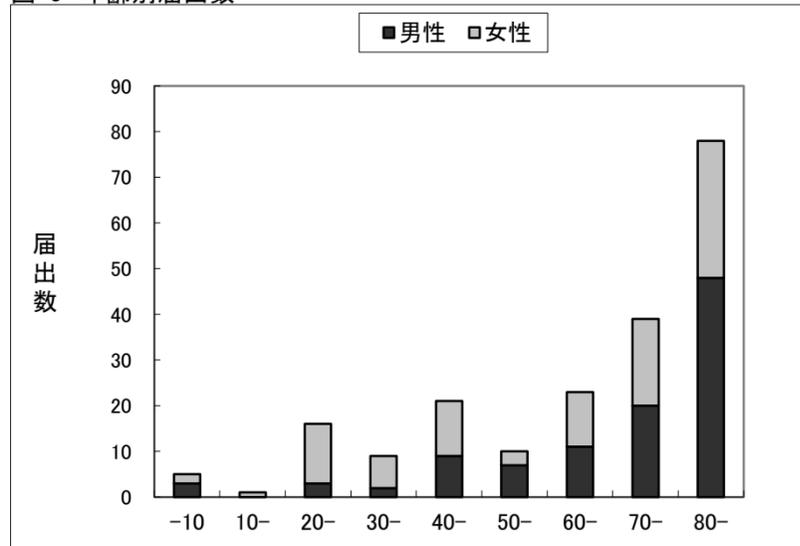


図-6 病型別

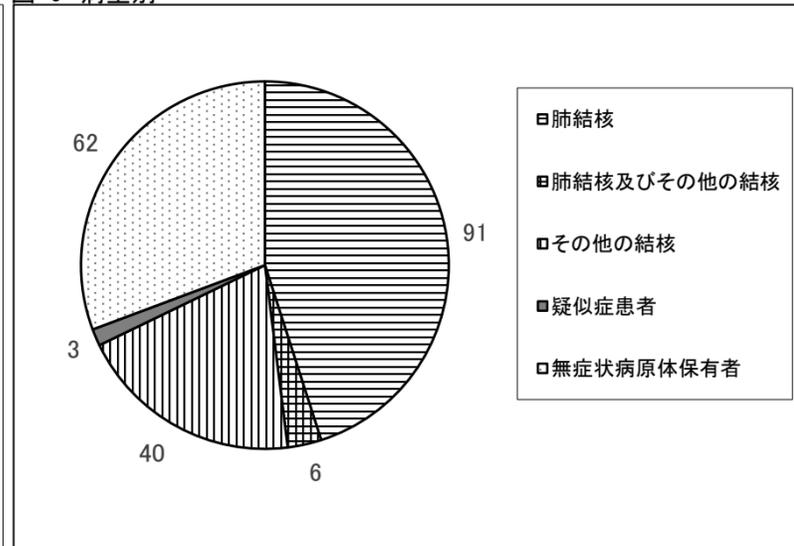
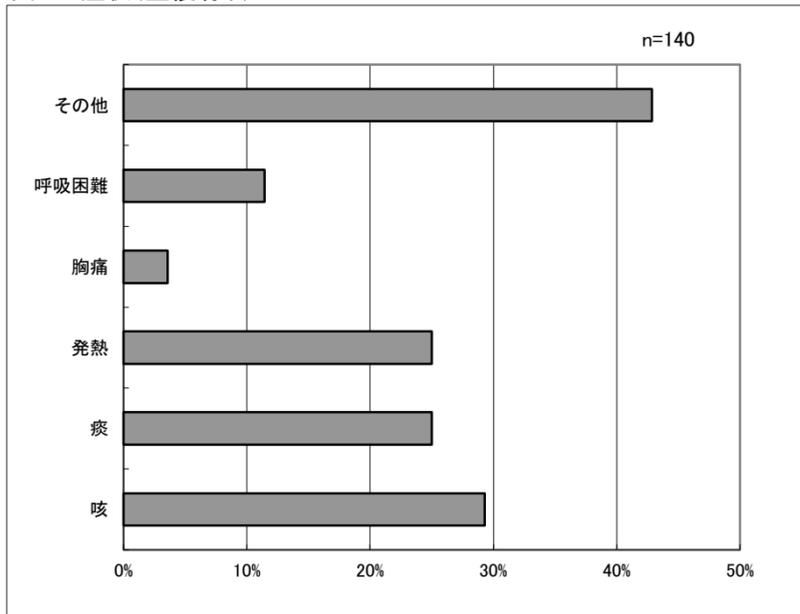


図-4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内: 88例
 国内(県外・不詳): 105例(国内不明含む)
 海外: 9例

腸管出血性大腸菌感染症

(別添2)

図-1 過去からの週別届出数の推移

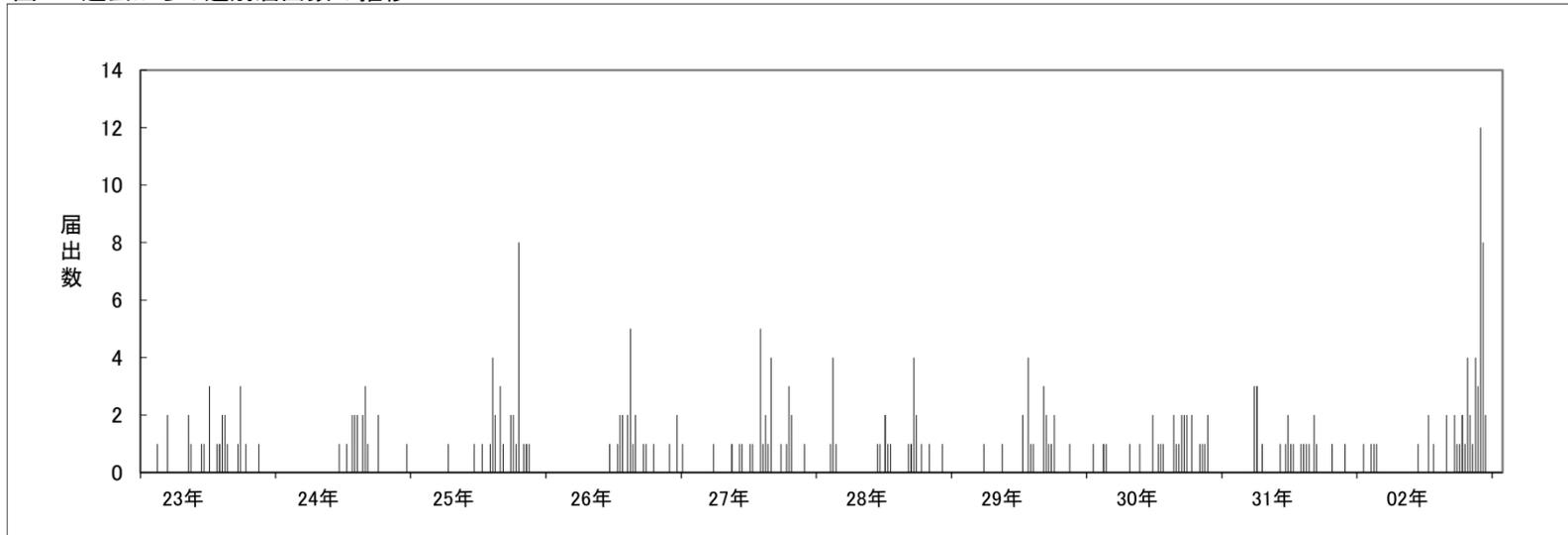


図-2 過去からの届出数の推移

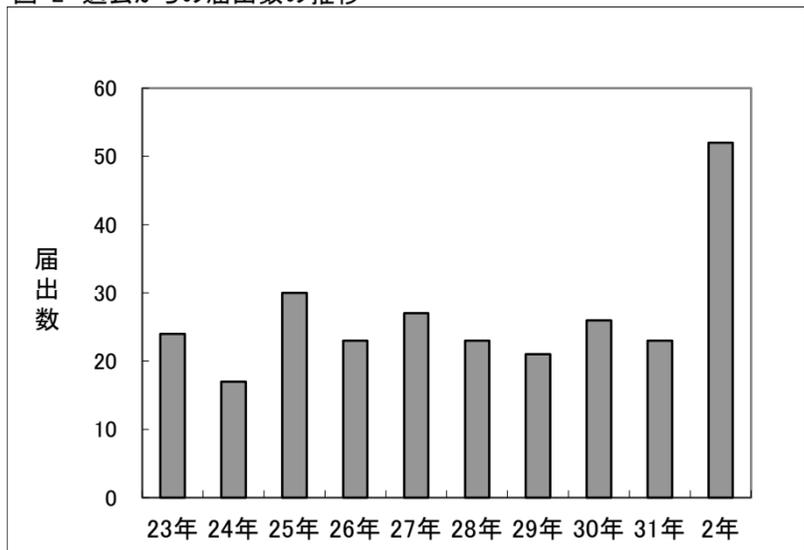


図-5 週別届出数

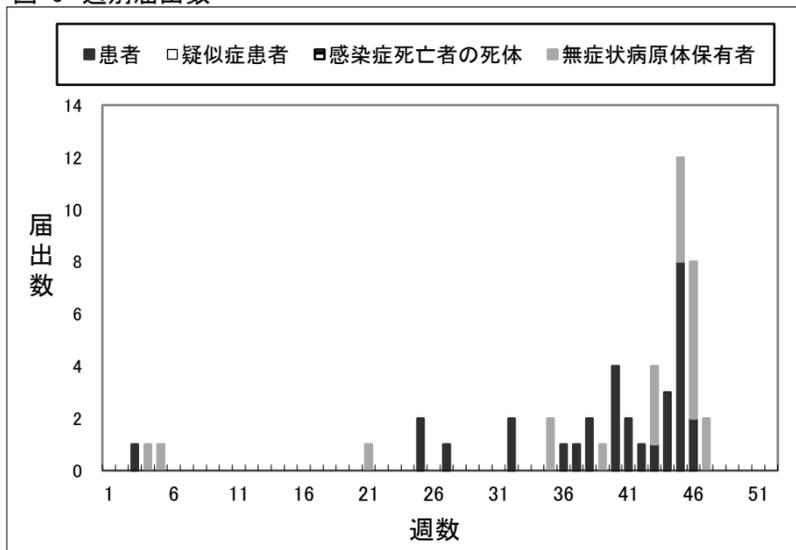


図-3 年齢別届出数

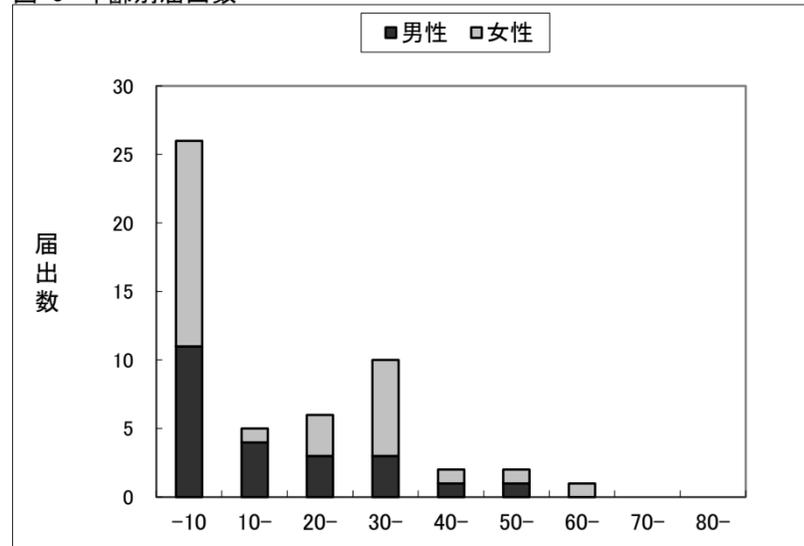


図-6 病型別

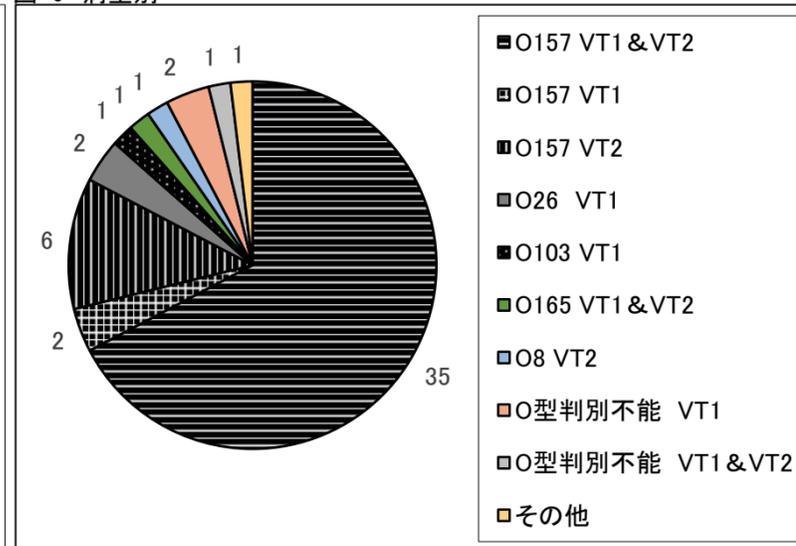
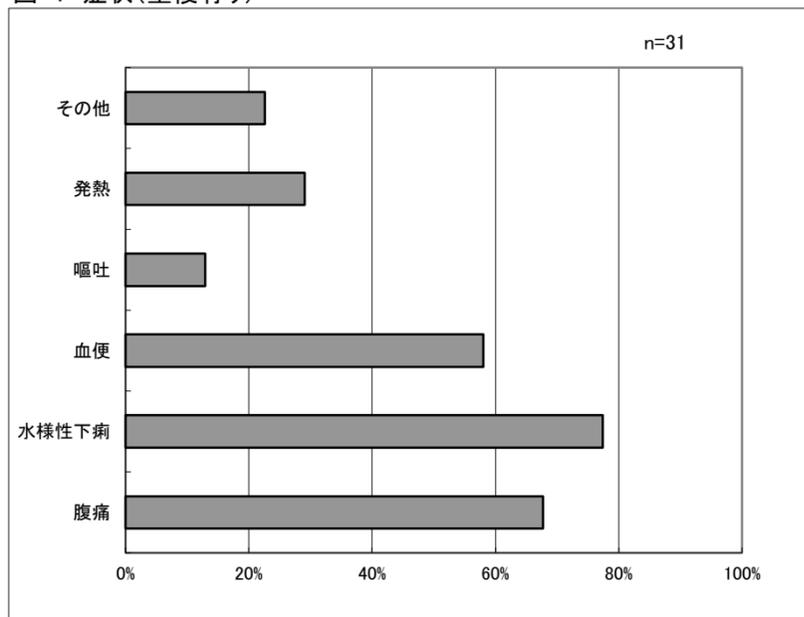


図-4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内: 34例
 国内(県外・不詳): 17例
 海外: 1例

感染経路(推定含む)
 経口感染: 20例
 うち4例に肉類(生肉等)の記載あり
 接触感染: 11例
 不明: 20例

その他の症状: 泥状便(黄色)、血小板減少

梅毒

(別添3)

図-1 過去からの週別届出数の推移

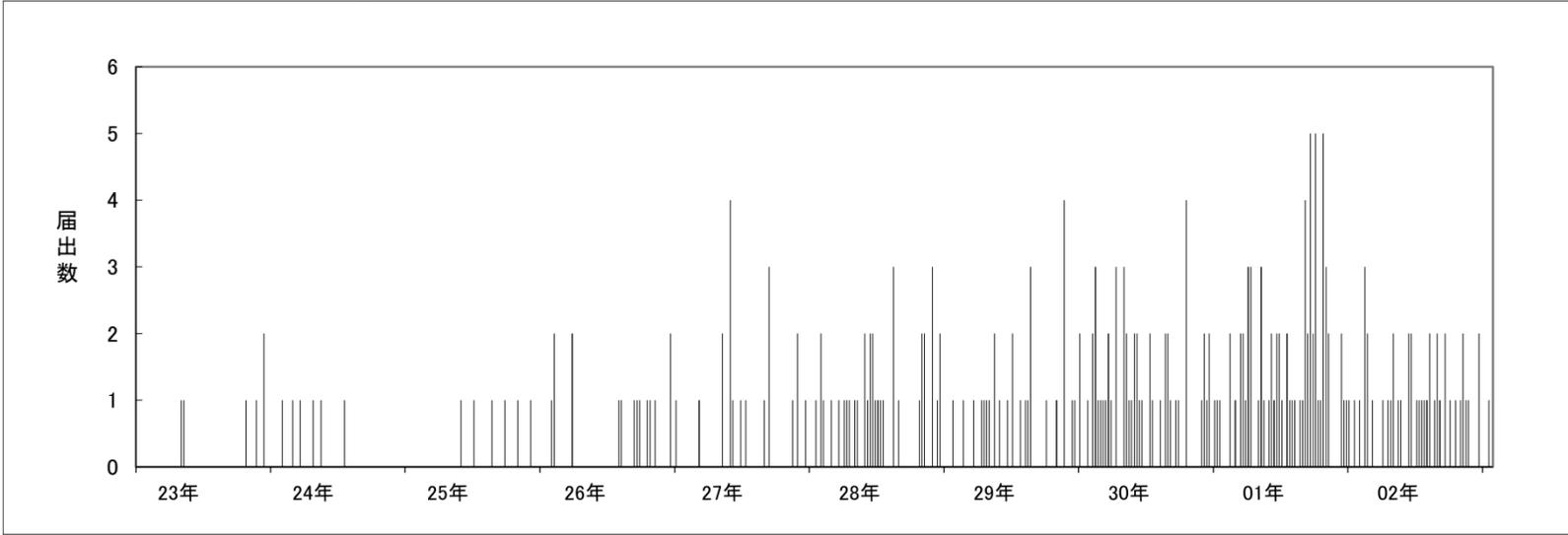


図-2 過去からの届出数の推移

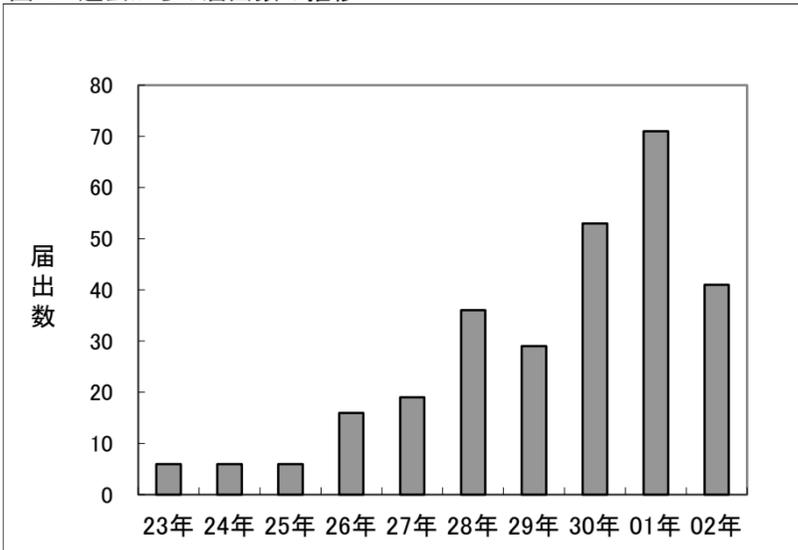


図-5 週別届出数

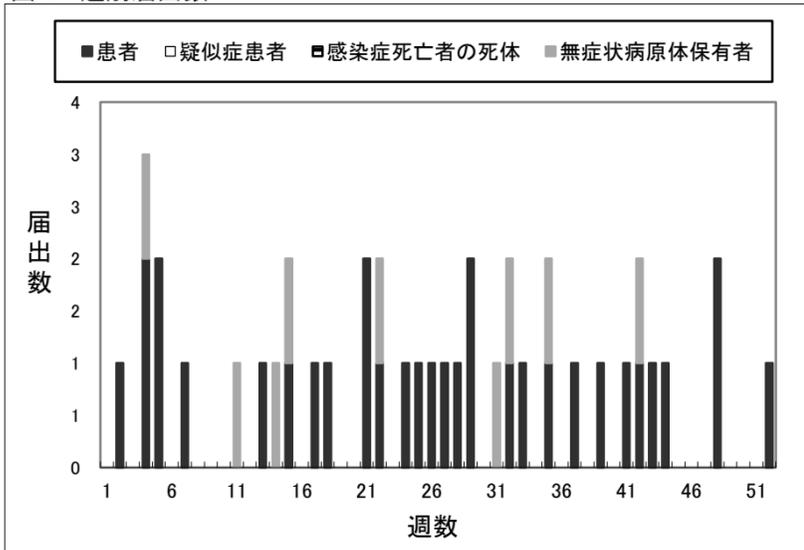


図-3 年齢別届出数

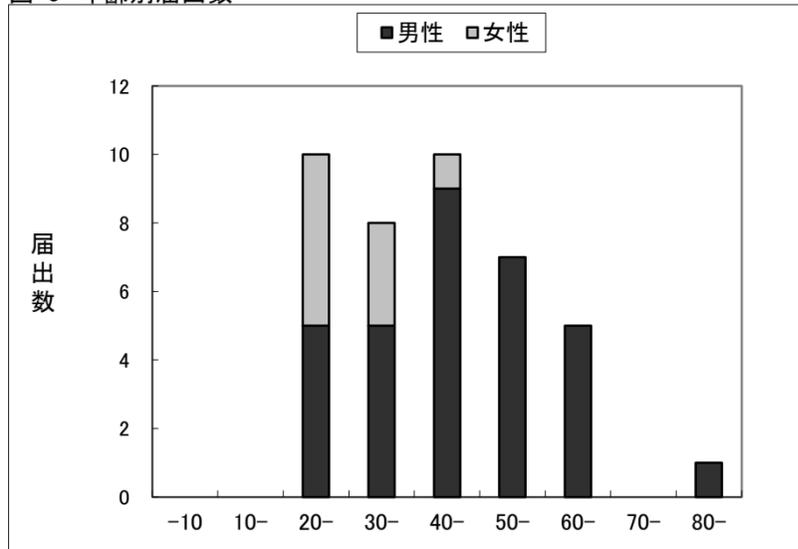


図-6 年齢群別の届出数の推移

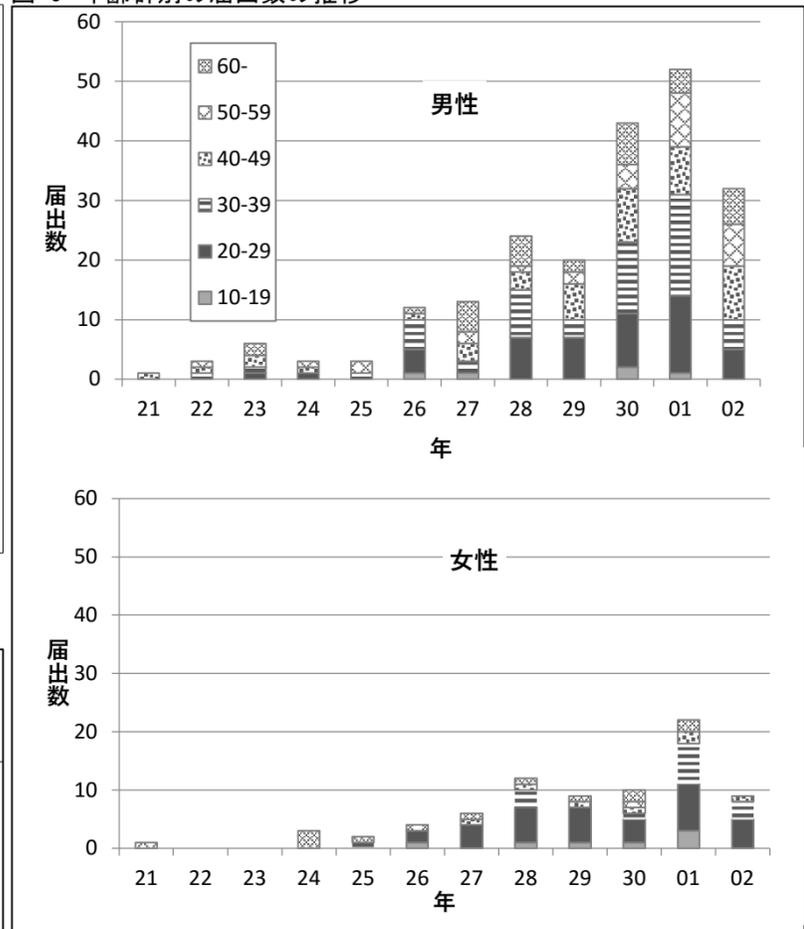
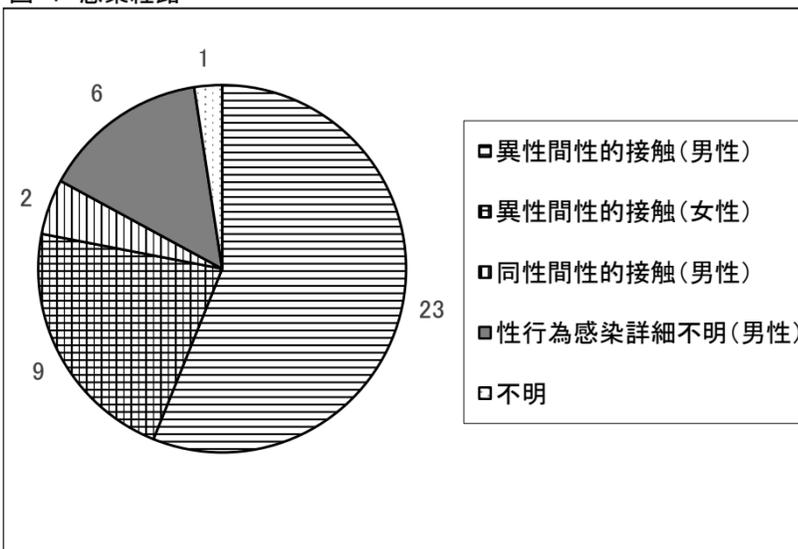


図-4 感染経路



その他

感染地域(推定含む)
 県内: 10例
 国内(都道府県不明含む): 14例
 不明: 17例